

第2回卒業式 大正3年3月23日学校長報告・告辞

文部大臣祝辞

爰こゝに本校卒業証書授典を挙ぐるに方り一言卒業生諸子の為に祝し且望む所を諒あやまぐ
顧るに国富の増進は工業の発達に待つ所多く工業の発達は一に素養あり人格ある士の奮励
努力に待つ諸子是より出でて業に就かば誠実と熱心とを以て事に当り知識技能を研修して
日新の進歩に後れず常に我国工業の発展に資し以て本校教養の旨趣に副はんことを期せよ
大正三年三月二十三日 文部大臣 大岡育造

学校長報告

本日第二回の卒業証書授興式を挙行にするに方り 大方諸賢の御臨場を辱おとしふせるは本校の
栄光とする所であります 本校職員生徒一同を代表して厚く御礼申上ます

明治四十三年本校創立以来今年まで五回生徒を募集致しましたが入学志望者は左の通り増
加して居ります 即はち

明治四十三年 百二十八人

同 四十四年 八十三人

同 四十五年 百十二人

大正二年 百五十一人

大正三年 二百十人

本校生徒の数は目下百十二名であります 来月中旬には二百名近くになる見込みであり
ます

第一回の卒業生は二十七名でありましたが今回の卒業生は二十九名であります

第一回卒業生は一年志願兵として入営し居る者四名を除き其他は皆株式会社又は個人経営
の工場、学校、税関等に奉職従事し孜々として勤勉努力以て他日の立身成效を期待して居
ります。今回の卒業の卒業生の多数も畧之と同一の巡路を踏むことと思ひます

本校の設備は色染科は畧は完備致しました 紡織科は機織りに関するものは略充分であり
ますが 紡織に関するものは今後増設を要します

機械科も一通りの設備は出来ましたが 未だ完全とは申す訳には参りません

今後漸々拡張する積りであります 応用化学科に醸造部を新設すること、本校に電気科を
増設することは 私年来の希望であります、未だ実現するの期に達しませんのは甚だ遺
憾とするところであります

教官中高等官の異動に付て一言致します

本校創立以来教授として任命せられたる教官は猪狩教授が病気の為め休職となり 西山教
授が独逸国留学中、同国にて病死 広根教授が外国より帰朝後間もなく当地にて病死した
る外 皆健全に協力一致して生徒の教育の任に当られて居ります 今回海外留学を命ぜら

れたる太田教授は去十四日神戸を出発しましたから今日頃は香港に近づきつつある筈であります。それから特に諸君にご報告致しますのは前の熊本高等工業学校機械科に長たりし下山教授は今般故広根教授の後任として本校に参られましたことであります。学識深遠にして実地、経験を有せらるる下山教授の如き学士を本校に招致するを得たるは独り本校のみならず米沢市の為めにも幸福と信ずる次第であります。

第一回卒業式挙行の際私は来賓諸君に苦言を呈しました。それは米沢市乃至山形県内に於て我学校卒業生を採用するものなきは米沢市乃至山形県の為めに遺憾とする町であると申したのであります。今回の卒業生も未だ米沢市は申すに及ばず。東北六県より採用の申込を受けたる者は一人もありません。是は東北地方は概して工業が幼稚であるといふことを証明するに外ならずと考へます。併し私は何時かは東北地方にも高等工業学校卒業生需要の時期が来るべきことを信じ、決して悲観は致しません。東北の振興と云う事は世挙て申して居りますが、而も其声のみ高くして事業之に伴わざるは必竟東北人自身が未だ奮発蹴起せぬからであると思ひます。

学校長告辞

我国工業の状態は欧米文明諸国に及ばざること遠し。之を改善し之を振興するに非ずんば焉んぞ富国強兵の実を挙ぐるを得んや。

而して工業の改善振興の責は懸て工業者の双肩に有り今日卒業の栄を荷ふもの須^{すべし}らく前途に此重大なる責任あるを思ふべし。而も此前途や遼遠なり諸子が本校に在を学びたるは学理の一斑に過ぎず実地の鍛錬に至ては他に就職の後忍耐努力幾多年月を経て始めて獲得すべきなり。是故に諸子新に職に就かば当さに左の事に留意すべし。

- 一 本校教育綱領の趣旨に遵かび至誠事に当るへし
- 二 責任を重んじ廉恥を尚づへし
- 三 部下を愛し弱者を憐むへし
- 四 学芸技術の足らざるを憂へよ。収入の多からざるを愁ふる勿れ

若し之諸子之を實行せば他日の成効期して待つべく本校教養の目的は竟に空しからざるべし。諸子国家の為自愛せよ。

卒業生総代答辞

米沢高等工業学校本日を以て生等二十九名のために盛大なる卒業証書授興式を挙げられ文部大臣閣下懇篤なる祝詞を寄せられ校長閣下亦懇切なる告辞を賜はる生等の光栄何物か之に加へん。今や皇威八紘に輝き聖徳四海に布りの盛運に際し校長閣下の薫陶と諸先生の指導とによりて今日の榮譽を受くるに至れるは生等の奉窮り無しと謂ふべし。然りと雖も榮譽の在るところは則ち責任の在るところなり。方今世界の列強鋭意国力の涵養に勉め学芸の進歩を競ひ就中工業の発達^{しんしん}は駭々として一日も息むことなり。其盛衰は邦家の隆替に関し工業家の能不能は国運の消長に係はるもの大なりと謂うべきなり。思ふに生等今日の光栄は萬

里の道程僅かに一步を進むるもの生等元より驚駘人^{どたい}一度鞭たば生等は之を十度し人之を十
度せば生等百度鞭つの覚悟を以て校長閣下並ひに諸先生の教訓を遵守し斯道の為めに奮励
せば庶幾くは国家の期待する所に孤負することなきを得んか 謹んで奉答す

大正三年三月二十三日 米沢高等工業学校第二回卒業生総代

林 重吉